

2022年度春季大会報告

チャレンジ支援委員会「わかばさんいらっしゃい」報告書

チャレンジ支援委員：天野、大嶋、黒田、鈴木、家根橋、吉川
2022年5月21日(土) 12:00-13:00 オンライン開催

「わかばさんいらっしゃい」は本大会1日目の12:00-13:00にオンラインで開催されました。初めて大会に参加する「わかばさん」を主な対象として、初参加の不安を取り除き、大会を楽しむコツを押さえ、「わかばさん」同士のネットワークを築く機会の提供を目指しました。

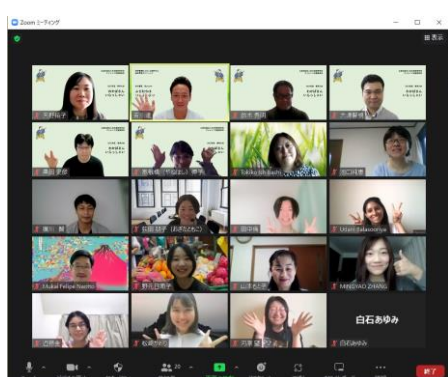
4月中旬から YouTube で「わかばさん」向けのオリエンテーション動画を公開し、大会の概要、参加登録の方法、視聴する発表の選び方、予稿集の活用、質問の方法などについて、「わかばさん」に紹介しました。今回、オリエンテーション動画のナレーションを機械音声で行いましたが、聞きづらかった等のコメントはありませんでした。動画は374回再生されました。

大会初日の「わかばさんいらっしゃい」には、日本語教育に携わり始めたばかりの方や、大会参加が初めての方、研究を始めたばかりの方など、15名の「わかばさん」の参加がありました。まず、オリエンテーション動画の内容を簡潔に復習した後に、質疑応答の時間を設けました。

その後、参加者3~4名からなるグループに分け、「わかばさん交流会」を実施しました。チャレンジ支援委員もグループに入りましたが、見守り役に徹しました。約40分間で、各参加者の本大会への参加目的、一番聞きたい発表、現在取り組んでいる研究テーマや教育実践上の疑問、大学院進学についての相談など多岐にわたる話題について語り合いました。参加者の間で接点を見つけて、お互いに情報交換しながら、和気あいあいと交流することができました。



参加者による事後アンケートでは、オリエンテーション動画の視聴を通じた大会の理解や開催した時間帯の適切さなどについて、肯定的な評価が得られました。「わかばさん交流会」もたいへん



好評で、「立場の異なる仲間(研究者)と接することで、良い刺激になった」「同じような立場でも置かれている環境が違うことから、共有できることがあって非常に面白かった」「同じことを研究している方に出会えた」「少人数で話やすく、たくさんの情報を得ることができた」「日本語教育関係の知らなかった情報を教えてもらえた」といったコメントが寄せられました。また、提案として「グループ内の方と交流できたが、時間的な制限もあると思いますが、もう一つ

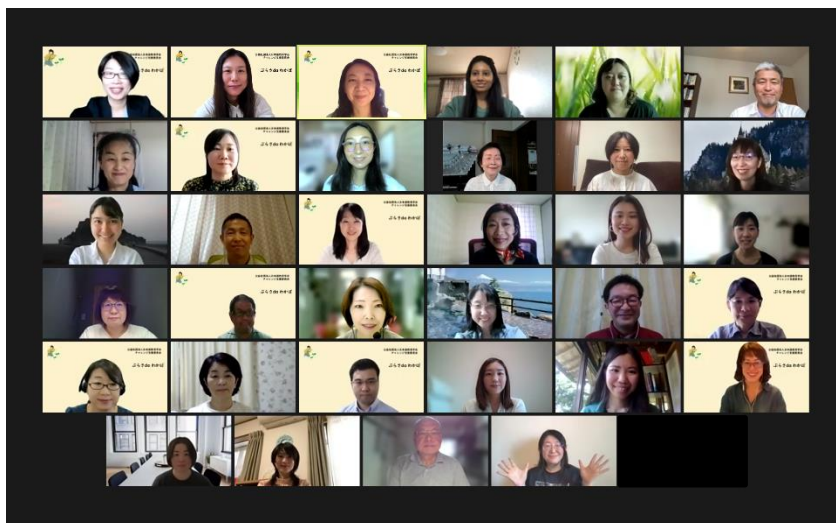
グループを作って、さらに交流してもよかったと思いました」というコメントがあったので、今後の検討課題としたいと思います。

今回知り合った「わかばさん」たちは、いつか大会や支部集会で再会することができるとでしょう。また、将来的に一緒に研究や実践に取り組む仲間と出会えたかも知れません。「わかばさん」たちにとって、「わかばさんいらっしゃい」が日本語教育学へ向かうスタートラインとなることを願っています。

「ぶらさ da わかば」 第2日目 12:30-13:30

担当：大嶋智規・大平幸・高村めぐみ・平山允子（文責）・毛利貴美

日本語教育の世界で「わかば」な人に、先を歩く「センパイ」との対話、交流の機会を提供する「ぶらさ da わかば」第12回目が実施されました。今年度より、日本語教育学会の春季大会は全面オンライン開催、秋季大会は対面による会場開催とすることが決定し、今回の「ぶらさ da わかば」は春季大会第2日目に、オンラインで実施しました。



センパイ登録をしてくださっている会員の中から、8名の方にセンパイとしてご協力いただき、応募された17名のわかばさんとの対話セッションを実施しました。Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用し、センパイ毎の8つのブレイクアウトルームにチャレンジ支援委員各1名が常駐し、万が一のトラブル等に備えました。同時にメインルームにも全体を把握するために委員が待機し、各ルームに残り時間を知らせる、各ルームに常駐している委員からの進捗状況を確認しながら全体を把握する、という体制を整えて実施をしました。その結果、今回もスムーズな運営ができました。

事後アンケートでは、ご参加いただいたわかばさん・センパイ双方から高評価をいただきました。特に、わかばさんからは「地方にいてもこうやって参加できる」などオンライン開催の良さや、「先生（センパイ）だけでなく、同室だった別のわかばさんのお話も聞いて、良かった」「センパイからも、また一緒に参加したわかばさんからもよい刺激を受けました」など複数のわかばさんを各ルームに配置したことの良さについてのコメントもありました。一方で課題も残されています。オンラインでは終了時間が明確に決まっているため荒ただしく終わってしまうことや、各ルームでの自己紹介と対話のよりよい時間配分や流れ、またわかばさんの当日キャンセルをなくすにはどうしたら良いかなどは、今後の検討課題です。

オンラインとしては4回目となった「ぶらさ da わかば」ですが、今後、秋季大会では再び対面での開催に戻ります。これまで対面、オンラインそれぞれで経験してきたことを活かし、わかばさんがこれをきっかけにしてより活躍の場を広げていくことができる企画にしていけたらと思っています。引き続き、本企画へのご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。